

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校サンテクノカレッジ
設置者名	学校法人サンテクノカレッジ

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	マルチメディア科	夜・通信	12単位	6単位	
	情報システム科	夜・通信	14単位	6単位	
	コンピュータコミュニケーション科	夜・通信	28単位	12単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.suntech.ac.jp/support/">https://www.suntech.ac.jp/support/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校サンテクノカレッジ
設置者名	学校法人サンテクノカレッジ

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.suntech.ac.jp/aboutus/03.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任 期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社従業員	2019.2.27～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
非常勤	株式会社役員	2019.6.20～ 2021.3.31	学校運営に対する チェック機能等
(備考) 理事9名中、8名（校長を除く全員）が学外者。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校サンテクノカレッジ
設置者名	学校法人サンテクノカレッジ

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)に関しては、校内のカリキュラム委員会において記載項目を検討・選別しており、授業概要、到達目標、各回の授業計画、成績評価の方法、テキスト、また実務経験のある教員による科目についてはその旨や実務経験内容を記載し、学生に公開している。</p> <p>また、この授業計画書(シラバス)に関しては、2月初旬に担当教員に作成を依頼し、翌年度4月の履修登録の参考になるように、3月末にはWeb上で公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	Webにて公開 <a href="https://www.suntech.ac.jp/support/">https://www.suntech.ac.jp/support/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)で教科ごとに成績評価の方法を記載・公開している。評価は、試験、レポート、出席点などの組み合わせによるものが大半である。なお、授業の欠席回数が総授業回数の1/3以上の場合は「欠格」となり、定期試験を受けることができなくなる。また評価の基準は、「定期試験規程」第5条、『評価は、5段階で行い、その表示はS、A、B、C、Dをもって記載するものとする。ただし、教授目標に達したものをC、到達度のやや高いものをB、到達度の高いものをA、到達度の極めて高いものをSとし、Dを不合格とする。』である(Webにて公開)。</p> <p>また、教務の内規であるが、Sは90点以上、Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Dは60点未満である。これは、学生には掲示により公開している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校のGPAは「取得科目単位×ポイント」の総和を「履修科目単位数(D,欠格を含む)」の総和で除したものである。またポイントの内訳はS:4、A:3、B:2、C:1である。分布の状況は、Webにて公開しており、学生が閲覧することができる。個人別の成績表には、このGPAを記載し、下位1/4に入る場合はその旨を記載する。教務担当者はそのGPAの分布状況の詳細を検索することが可能である。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.suntech.ac.jp/support/">https://www.suntech.ac.jp/support/</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則第5章において、卒業要件を「本校を卒業するためには、第5条に規定する修業年限以上在学し、所定の授業科目について所定の単位数を修得しなければならない。」と規定している。カリキュラムに定められた科目の中から所定の単位を取得することは、教育方針である①情報を加工・分析する能力、②情報を選別・判断する能力、③価値ある情報を創り出す能力、の基本的能力を取得したことを保証するものである。具体的には、プログラミング能力、アプリケーション操作の習得、数的能力、情報技術の基本及び応用知識、グラフィック及びデッサン力・プレゼンテーション技術などを多岐にわたる能力である。</p> <p>卒業認定の手順は、成績会議において必要単位を修得していることを吟味・確認し、校長により卒業が認定される。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.suntech.ac.jp/support/">https://www.suntech.ac.jp/support/</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校サンテクノカレッジ
設置者名	学校法人サンテクノカレッジ

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_bs.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_bs.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_jigyo.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_jigyo.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_zaisan.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_zaisan.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_report.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_report.pdf</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_kansa.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/finance/2019/2019_kansa.pdf</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報（1）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	マルチメディア科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	97単位	単位時間 96/単位	単位時間 26/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			122単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		58人	1人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） マルチメディア技術を活用できる人材を育てることを目的にした学科である。2D・3DCG、アニメーションやビデオ動画作成、2D・3DCAD や3D プリンタの技術を学び、さらに“デザイン力”にも力を入れる。1年次では基礎的な知識と技術を学び、資格試験にも挑戦し、2年次では実践の作品制作として、外部からの委託作品制作やコンペなどにも参加する。2年間で、企業で求められる実践的なスキルが習得できるようカリキュラムを体系的に配置すると同時に、新しい技術にも対応できるように毎年シラバスの見直しも行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業計画書（シラバス）で教科ごとに成績評価の方法を記載・公開している。評価は、試験、レポート、出席点などの組み合わせによるものが大半である。なお、授業の欠席回数が総授業回数の1/3以上の場合は「欠格」となり、定期試験を受けることができなくなる。また評価の基準は、定期試験規程第5条『評価は、5段階で行い、その表示はS、A、B、C、Dをもって記載するものとする。ただし、教授目標に達したものをC、到達度のやや高いものをB、到達度の高いものをA、到達度の極めて高いものをSとし、Dを不合格とする。』である（Webにて公開）。

また、教務の内規であるが、Sは90点以上、Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Dは60点未満である。これは、学生には掲示をもって公開している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則第5章において、卒業要件を「本校を卒業するためには、第5条に規定する修業年限(2年)以上在学し、所定の授業科目について所定の単位数を修得しなければならない。」と規定している。カリキュラムに定められた科目の中から所定の単位を修得することは、教育方針である①情報を加工・分析する能力、②情報を選別・判断する能力、③価値ある情報を創り出す能力、の基本的能力を取得したことを保証するものである。具体的には、アプリケーション操作の習得、情報技術の基本及び応用知識、グラフィック及びデッサンの基本能力やプレゼンテーション技術などである。卒業認定の手順は、成績会議で必要単位を修得していることを吟味・確認し、校長により卒業が認定される。
学修支援等
(概要) 資格取得を目指す学生に対しては、資格試験の対策講座や個別の学習指導などを行っている。また、理解度の低い学生に対しては、放課後などに個別指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100.0%)	1人 (7.7%)	9人 (69.2%)	3人 (23.1%)
(主な就職、業界等) ・デザイン業務(グラフィックデザイン、Webデザインなど) ・事務系業務(一般事務、公務員など)			
(就職指導内容) ・個別指導(履歴書、エントリーシート、面接などの指導) ・校内就職セミナー、校内企業説明会、校内業界セミナーの開催など			
(主な学修成果(資格・検定等)) Webデザイナー検定、CGクリエイター検定、CGエンジニア検定、画像処理検定、マルチメディア検定、色彩検定、カラーコーディネーター検定、情報検定、ITパスポート試験、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験、CAD利用技術者試験、日商簿記検定など			
(備考)(任意記載事項)			

①学科等の情報 (2)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	97単位	単位時間 97/単位	単位時間 22/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			119単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		72人	1人	2人	4人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) システム開発、ソフトウェア開発に関する専門的な知識と技術を持った人材を育成するために、プログラミングやシステム設計を中心とする知識習得のための講義科目と、コンピュータを使って実践的に技術を習得するための演習科目から構成される。2年間で、企業で求められる実践的なスキルが習得できるようカリキュラムを体系的に配置すると同時に、新しい技術にも対応できる専門知識を学べるように毎年シラバスの見直しも行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 授業計画書(シラバス)で教科ごとに成績評価の方法を記載・公開している。評価は、試験、レポート、出席点などの組み合わせによるものが大半である。なお、授業の欠席回数が総授業回数の1/3以上の場合は「欠格」となり、定期試験を受けることができなくなる。また評価の基準は、定期試験規程第5条『評価は、5段階で行い、その表示はS、A、B、C、Dをもって記載するものとする。ただし、教授目標に達したものをC、到達度のやや高いものをB、到達度の高いものをA、到達度の極めて高いものをSとし、Dを不合格とする。』である(Webにて公開)。 また、教務の内規であるが、Sは90点以上、Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Dは60点未満である。これは、学生には掲示をもって公開している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則第5章において、卒業要件を「本校を卒業するためには、第5条に規定する修業年限(2年)以上在学し、所定の授業科目について所定の単位数を修得しなければならない。」と規定している。カリキュラムに定められた科目の中から所定の単位数を修得することは、教育方針である①情報を加工・分析する能力、②情報を選別・判断する能力、③価値ある情報を創り出す能力、の基本的能力を取得したことを保証するものである。具体的には、情報処理の基本及び応用知識の習得、Web作成技術、データベース作成技術、プログラミング技術などである。 卒業認定の手順は、成績会議で必要単位を修得していることを吟味・確認し、校長により卒業が認定される。
学修支援等
(概要) 資格取得を目指す学生に対しては、資格試験の対策講座や個別の学習指導などを行っている。また、理解度の低い学生に対しては、放課後などに個別指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35人 (100.0%)	11人 ( 31.4%)	22人 ( 62.9%)	2人 ( 5.7%)
(主な就職、業界等) ・ I T系業務（プログラマー、システムエンジニア、ネットワークエンジニアなど）			
(就職指導内容) ・ 個別指導（履歴書、エントリーシート、面接などの指導） ・ 校内就職セミナー、校内企業説明会、校内業界セミナーの開催など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報検定、CGエンジニア検定、 C言語プログラミング能力認定試験、インターネット検定、CAD利用技術者試験、 マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験など			
(備考)（任意記載事項） ・ 進学者は、コンピュータ コミュニケーション科3年次への編入学			

### ①学科等の情報 (3)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	コンピュータ コミュニケーション科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	167単位	単位時間 129/単位	単位時間 72/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
201 単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		85人	人	4人	4人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 1・2年次は、ソフトウェア分野を幅広く学び、プログラミングを通じてシステムエンジニアに必要な論理的思考能力を身につけることを目指す。3年次では、専門分野の知識・技術をより深く学び、応用力を身につけ、新たなプログラミング言語を学び、実践的なソフトウェア開発を行う。4年次では、最新の技術を授業に反映し、対応できる知識や技術の幅を広げ、企業との共同研究やシステム開発にも取り組む。また、プロジェクト(卒業研究)にも取り組み、卒業論文を仕上げ、研究発表も行う。4年間で実践的な技術を身につけることを計画し、講義、演習の授業を開設している。知識などを講義形式で学び、プログラミングなどの演習を行うことにより、より実践的な教育効果を目指すものである。また、より実践的なスキルが習得できるようカリキュラムを体系的に配置すると同時に、新しい技術にも対応できる専門知識を学べるように、毎年シラバスの見直しも行っている。



成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)で教科ごとに成績評価の方法を記載・公開している。評価は、試験、レポート、出席点などの組み合わせによるものが大半である。なお、授業の欠席回数が総授業回数の1/3以上の場合は「欠格」となり、定期試験を受けることができなくなる。また評価の基準は、定期試験規程第5条『評価は、5段階で行い、その表示はS、A、B、C、Dをもって記載するものとする。ただし、教授目標に達したものをC、到達度のやや高いものをB、到達度の高いものをA、到達度の極めて高いものをSとし、Dを不合格とする。』である(Webにて公開)。</p> <p>また、教務の内規であるが、Sは90点以上、Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Dは60点未満である。これは、学生には掲示をもって公開している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>学則第5章において、卒業要件を「本校を卒業するためには、第5条に規定する修業年限(4年)以上在学し、所定の授業科目について所定の単位数を修得しなければならない。」と規定している。カリキュラムに定められた科目の中から所定の単位を修得することは、教育方針である①情報を加工・分析する能力、②情報を選別・判断する能力、③価値ある情報を創り出す能力、の基本的能力を取得したことを保証するものである。具体的には、情報処理の基本及び応用知識の習得、Web作成技術、データベース作成技術、プログラミング技術、数理的知識、システム設計の知識、プロジェクト(卒業研究)などである。</p> <p>卒業認定の手順は、成績会議で必要単位を修得していることを吟味・確認し、校長により卒業が認定される。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>資格取得を目指す学生に対しては、資格試験の対策講座や個別の学習指導などを行っている。また、理解度の低い学生に対しては、放課後などに個別指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100.0%)	人 ( 0%)	8人 ( 100.0%)	人 ( 0%)
(主な就職、業界等)			
・IT系業務(プログラマー、システムエンジニア、ネットワークエンジニア、セキュリティエンジニア、ゲームクリエイターなど)			
(就職指導内容)			
・個別指導(履歴書、エントリーシート、面接などの指導)			
・校内就職セミナー、校内企業説明会、校内業界セミナーの開催など			
(主な学修成果(資格・検定等))			
基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士試験、情報検定、CGエンジニア検定、C言語プログラミング能力認定試験、インターネット検定、CAD利用技術者試験、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験など			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
170 人	9 人	5.3%
(中途退学の主な理由) 病气療養、出席不足、家庭の経済的な事情、就職など		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席が多い学生に対しては、担任、教育部、保護者が連携し、出席を促す指導を行っている。</li> <li>・ 成績不良による退学者を防ぐため、個別指導や補習を行い、授業内容の理解を促している。</li> </ul>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
マルチメディア科	150,000 円	800,000 円	180,000 円	実習費
情報システム科	150,000 円	800,000 円	180,000 円	実習費
コンピュータコミュニケーション科	150,000 円	800,000 円	180,000 円	実習費
修学支援 (任意記載事項)				
・特別推薦入学制度：入学金免除				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/assessment/doc/jikohyoka2018.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/assessment/doc/jikohyoka2018.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高める。</li> <li>本校の専門分野の関係団体、専門分野の関係業界、地元自治体、卒業生など、本校と密接に関係する者(定数5名)の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。</li> <li>評価結果を踏まえて、校長を中心に随時改善できる項目から教職員全員で改善を図っていく。</li> <li>主な評価項目は、以下の通りである。 ※教育理念・育成人材等、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献など。</li> </ul>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人山梨県情報通信業協会	2019.10.1～2022.9.30	関係団体
株式会社ジインズ	2019.10.1～2022.9.30	関係業界
株式会社エスピーシー	2019.10.1～2022.9.30	関係業界
甲斐市	2019.10.1～2022.9.30	地元自治体
サンテクノカレッジ同窓会	2019.10.1～2022.9.30	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.suntech.ac.jp/disclosure/assessment/doc/kankeisyahyoka2018.pdf">https://www.suntech.ac.jp/disclosure/assessment/doc/kankeisyahyoka2018.pdf</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.suntech.ac.jp/">https://www.suntech.ac.jp/</a>
--